

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	保健体育課長 佐藤 正範	電話番号	0852-22-5722
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	子どもの体力向上支援事業		
目的	(1) 対象	児童生徒	
	(2) 意図	運動の楽しさを体験し、運動が好きになることで、基礎的な体力・運動能力の向上を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける	
事業概要	・子どもの体力の低下問題に対応するため、学校や地域において、子どもの体力向上を目指した取組を促進し、子どもの体力向上を図る。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	親世代との体力比較（昭和61年を100とした場合）	目標値	96.0	96.5	97.0	97.5	%
	式・定義	体力テストの数値比較（中学校2年生）	実績値	94.9				
	達成率	-	-	-	-	-	%	
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
	達成率		-	-	-	-	%	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	10,447	12,832
うち一般財源 (千円)	8,123	7,898

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストの結果からは、体力ピーク時であった昭和61年頃と比較すると、種目によっては当時に優るものもあるが、全体としてはここ数年、当時の記録に及ばない状況が続く（社会環境・生活習慣の変化の影響も大きいと考えられる）。</li> <li>・体力数値は、小学校は全国より高く、中学・高校で全国より低い傾向にある。H27年度は前年度の本県記録より高くなっている種目も多いが、全国体力・運動能力等調査（小5・中2対象）の都道府県順位は低下した（小5男11位、小5女17位、中2男36位、中2女42位）。全体的に筋力、柔軟性（握力・上体起こし・長座体前屈）などの低下が目立つ。</li> <li>・体力数値と共に、運動習慣（運動時間・意識）の2極化が、特に中・高生の女子で目立つ。</li> </ul>
---

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事による学校訪問、学校体育ステップアップ事業、元気アッププログラムの活用、「しまねっ子！元気アップレポート」の利用などを通して、体育授業の充実や体力向上のための積極的な取組が定着し始めている。</li> <li>・中学女子では、1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合が減ってきており、「運動やスポーツをすることは好きですか？」という問いに「好き」と答える生徒の割合が多くなった。</li> <li>・中学校においては、「自分自身が武道及びダンスの経験があまりない」という教員が多く見られる実態から、教員向けの武道・ダンス指導の研修会の開催により、教員の指導力の充実が図られた。</li> </ul>
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動離れや運動をする子としない子の二極化による児童生徒の体力や運動能力の低下（特に中高女子）</li> <li>・小学校入学時点ですでに学校生活に必要な運動能力を獲得できていない子どもの存在</li> <li>・教員の体育の授業力向上のための研修の機会の少なさ</li> <li>・生活様式の変化や三間（時間・空間・仲間）の減少による運動経験の質や量の減少</li> </ul> <p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生において全国のランクが大きく低下した要因は、全体的な底上げに島根県が追いついていないことがあると考えられる。中学女子の運動時間の低さは文化部加入率の高さも影響している。</li> <li>・運動が得意な子どもでも単一のスポーツ経験が中心で、様々な遊びを経験していないため、特定の動作や運動が身につけていない。</li> <li>・学校の中で体育授業の充実・体力向上の取組への機運が十分に浸透していない。</li> <li>・家庭や地域での体力向上に関する意識や連携のあり方が十分でない。</li> </ul> <p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県全体の体力向上には、運動が「苦手」「嫌い」という集団の底上げが必要である。</li> <li>・体育・保健体育科の授業の充実とそのための教員の指導力の向上が極めて重要である。</li> <li>・学校ぐるみでPDCAサイクルに基づいた体力向上の取組の工夫改善が求められる。</li> <li>・幼児期から、特定の技能に限らず多様な運動経験を重ねていくことが大切である。</li> <li>・学校・家庭・地域が連携した運動の生活化に向けた取組の工夫が必要である。</li> </ul>
--

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校への指導主事訪問や女子の運動離れに対応した教材の工夫や開発などによる授業の改善と授業力向上への取組</li> <li>・外部指導者の派遣等を通じた中高の運動部活動への支援</li> <li>・楽しみながら運動に取り組むことができる「しまねっ子！元気アップ・プログラム」の活用と普及</li> <li>・幼稚園や保育関係者、保護者等を対象に幼児期の実技講習会の開催や親子で取り組む運動遊びの普及啓発</li> <li>・地域における体力向上推進活動の支援（公民館、地域総合型スポーツクラブ等）</li> </ul>
--

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--